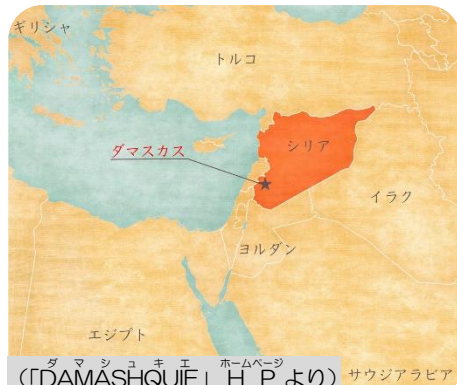




2022-1 次隊 岡崎 友里

／ 国を超えて受け継がれる伝統 ／

シリアについて関心が高まり、調べているうちに、シリアの伝統工芸について知りました。実は、シリアには日本の伝統工芸とよく似たものもあるのです。今回は伝統工芸の1つに着目してお伝えします。



世界遺産「パルミラ遺跡」 世界遺産「ウマイヤ・モスク」

シリアの首都ダマスカスは、「世界最古の都市」(世界でも最も古い継続的に人が住み続ける都市)の一つです。今から約4000年～5000年前の紀元前3000年に形成されたとされており、エジプトやメソポタミア、そして地中海を結ぶ都市であり、イスラム世界初の王朝(ウマイヤ朝)の首都として繁栄した商業都市でもあります。また、「旧約聖書」や「新約聖書」にも記載のあるユダヤ教やキリスト教にとってゆかりの深い街です。シリアは首都を中心として東西を結ぶ交易地として古くから文明が栄えた国であり、世界最古のモスク「ウマイヤ・モスク」を含む合計6つの世界文化遺産があります。しか

し、長く続く内戦の影響により、人々だけでなく、これらの遺産すべてが「危機遺産(危機にさらされている世界遺産)」に登録されています。

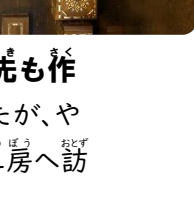
約4000年という深い歴史文化の中で、寄木細工(様々な種類の木材を組み合わせ、それぞれの色合

い違いを利用して模様を描く技法やその技術を用いて作られたもの。※日本の箱根で寄木細工が有名ですが、シリアからシルクロードを経て、江戸時代ごろに日本へ伝わったと言われています。)をはじめ、螺鈿(広い意味で貝を使って飾ること、その製品)、象嵌(1つの素材に異なる素材をはめこむ技術やその製品)、木彫り、織物、刺繍などの工芸技術が発達しました。シリア産の工芸品の高品質さと精巧さは中東地域のみならず、世界でも広く知られています。

そして、私はヨルダンでシリア寄木細工職人のアブーアベドさんに出逢いました。彼は職人として40年も様々な作品を作り出してきた人です。

現在ではシリアの内戦の影響もあり、国外へ逃げて道具や材料がなくて続けられずに辞めざるを得ない職人さんも多いそうです。アブーアベドさんになぜ40年以上も長く、故郷を離れてもなお、職人として働き続けるのか理由を尋ねると、「このシリアの伝統工芸を伝え続けていきたい。この技術をヨルダンで知る人はい

ない。だから伝えないといけなく思っている。やめようと思ったことは1度もない。この先も作品を作り続けるよ。」と話していました。時折、シリアの現状に悲しそうな表情を浮かべることもありましたが、やはりこの寄木細工に対する愛情や情熱、仕事への誇りや使命感を感じました。そんなアブーアベドさんの工房へ訪れると、忙しい時間を割いてどのように製作するのかも見せてくださったので、紹介させてください。



アブーアベドさん



さくひん
作品ができるまで…



切り出した木で形を作る。



ひもで固く縛って固定する。



専用の機械で薄く切る。



装飾するものに貼り付ける。



(左から成田さん、赤星さん、アブーアベドさん)

DAMASHQUIE 活動内容

職人さんからパーツを仕入れてオリジナルアクセサリを製作・販売しています。

過去に赤星さんが分りやすくお話された動画です!ぜひご覧ください♪



実は、同じようにヨルダンでアブーアベドさんに出逢い、「シリアの伝統を日本に伝えたい!」という思いをもって職人さんと一緒に活動する人がいます。赤星真弓さんと成田英幸さんです。お二人も過去に青年海外協力隊としてヨルダンを訪れた経験があります。今回お話を伺った赤星さんはなんと、以前紹介したサルトと萩市の観光事業(No.31参考)に関わっていら

っしゃったということが判明!!こんな形で縁が繋がるとは…驚きました。赤星さんは建設関係の会社で働きながら「DAMASHQUIE」の活動もされています。せっかくなら1つの支援に絞った方が良いのでは?2つを進めていくことは大変ではないのか尋ねると、「協力隊という経験を経て、隊員の中には帰国後に直接シリア支援に関わる人もいるが、自分のようなゆるりとした関わり方の支援があってもよいと思う。」と話して

くださいました。この言葉を聞いて、自分がこれから帰国をした後、変わらずに応援したり、支援したりしたい気持ちがありつつも、どうやって関わっていいのかもややもやとしていた気持ちが少し晴れました。なぜなら、国連機関のような大きな組織でなくとも、規模は小さく個人であっても、たとえ不定期ではあっても、誰かのために何かしたいという思いをもって行動することに「決まった形はないんだ。」と思ったからです。専門的で直接的な支援を行う国連組織やNGOももちろん素晴らしいことだけど、形にこだわらず、できることを自分に合った方法で無理せず行うことで、個人であっても継続的な支援につなげることができるということを考えさせられました。

「DAMASHQUIE」という名前でも立ち上げられた事業によって、職人さんに仕事を生み、製品の売り上げの一部は、シリア難民支援を行うNGOへ寄付されています。今回紹介したアブーアベドさんの作った寄木細工もアクセサリや木箱となって販売されており、日本でも購入ができます!ぜひ一度、ホームページやSNS等ご覧ください。

DAMASHQUIE

Artisan's collection



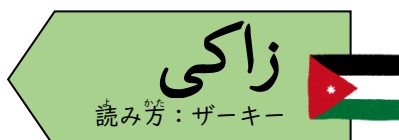
Let's talk in Arabic ♪

今回まで少し詳しくシリアについて紹介しました。アラビア語には主に書き言葉として使われるフスハー(日本語でいう文語)と普段日常で人々が使う話し言葉とその地域の方言であるアンミーヤ(日本語で言う口語)の2種類があります。アンミーヤは日本の方言のように、それぞれの国や地域によって異なり、同じものでも名前や言い方が異なります。シリアの友人に教わったシリアならではのアラビア語を紹介します。

「おいしい」を意味するそれぞれの方言です。



おいしい!



これでシリア人かヨルダン人か分るとか?同じアラビア語でもちがいがあっておもしろいです♪



では、また次回! مع السلامة